

東洋医学について考える

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今年の夏は記録的な暑さでありました。(この号が出る頃には涼しくなっているかも知れませんが)皆様大変お疲れ様でございました。体をつかってサービスを提供する当社にとって、皆様のご苦勞はまるで甲子園球児さながらであったと思います。誠にありがとうございました。



代表取締役社長 吉田治伸

さて、今月は、東洋医学について考えたいと思います。日本では西洋医学と東洋医学が存在しますが、主流は西洋医学であります。西洋医学は一言で言うと力で押さえつける医学であります。悪いものは切る、菌を殺す、熱は下げる、です。たとえば血圧なんかは、血管を拡げる事により血圧を下げるのであります。東洋医学は全く違います。自然治癒を前提とした手助けであります。風邪をひいた時に飲むのは葛根湯であります。この薬はただ体を温める薬です。体を温めることによって菌を殺すのであります。また、体の免疫力を高める方法として断食があります。3日も断食すると、人間の排出能力はたいしたもの(何も食べないわけですから)いろいろな溜まった老廃物が出て行きます。5日もすると、肌はツルツル、血管はサラサラ状態です。内臓脂肪も随分減ります。(断食は専門の施設で行わないと危険ですが)このように東洋医学というものは自分の免疫を高める事により、自然治癒能力を高める医学です。私は、コレステロール等で詰まった血管を拡げて血圧を下げるより、自然の力で排出して体全体をすっきりさせて血圧を下げるほうが理想的であると思っています。しかし、すぐに下げなくてはいけない時には西洋医学も必要であります。

私は、クレドが東洋医学、マニュアルが西洋医学のような感じがしています。クレドは全体であり、予防であります。マニュアルは対処療法であります。「どちらも重要だなあ。」と思っています。

まだまだ暑い日が続きますが体に気をつけて下さい。